

ふれあい健康促進体操 西条・向陽・黒瀬支店

J A 西条支店、向陽支店、黒瀬支店は11月5日、三ツ城地域センターでふれあい健康促進体操を開きました。今年度は7月に続き、2回目の開催。3地域の組合員や利用者、女性部員ら56人が参加。日本ケアビクス連盟の倉西龍子さんが、椅子に座ったままで体を動かす体操を指導しました。

体操教室は、旧J A 広島中央が年金受給者向けに2013年度から2022年度まで開いていました。利用者から再開の要望もあり、



▲椅子に座って体操する参加者

西条支店を基幹支店とするエリアの支店ふれあい委員会が合同で開催することとなりました。

特産PR 黒瀬ハボタン祭り

黒瀬支店ふれあい委員会と黒瀬アグリセンターは12月20日に産直市「となりの農家」黒瀬店で、21日に「とれたて元氣市」となりの農家店でハボタン祭りを開きました。黒瀬花卉部の部員が対面で販売し、地元産ハボタンをPRしました。

「晴姿」「初紅」などの品種の切り花や寄せ植えなどをそろえ、買い物客でにぎわいました。

黒瀬アグリセンターが20年ほど前に呼び掛け、ハボタンの生産が始まりました。今年は10戸が露地で約3万本を栽培。正月の縁起物として人気が高く、12月下旬に県



▲ずらりハボタンが並んだ祭り

内市場やJ A 産直市などに出荷しました。

初めての米作り 2025年女性講座 閉講

J A 広島中央地域が2025年1月から取り組んできた「初めての米作り講座」が12月5日、閉講しました。全12回の講座で、営農指導員が作業時期に合わせた内容を女性の水稻栽培初心者26人に伝えました。

12月の講座では、2025年の米作りを振り返り、次年度に向けて耕起や堆肥の投入、雑草対策、高温障害の対策などを説明しました。

講座は旧J A 広島中央が2018年から始め、女性限定は4年目です。2025年からは安芸、芸南、三次地



▲講義する佐々木正文指導員

域でも講座を始め、米作りに携わりたい女性の農業への参加・参画を後押ししました。

育てたサツマイモを販売 三原市立大和小学校

三原市立大和小学校3年生19人は12月9日、J A 産直市「とれたて元氣市」となりの農家店でサツマイモと大和町産の白ネギを販売しました。

活動にはJ A 大和アグリセンターが協力。児童は、同校の畑で育てたサツマイモ17袋と、同町の田坂信太郎さんが生産した白ネギ100袋とサツマイモ100袋を販売しました。生徒が考案したサツマイモの料理レシピも配布。消費者アンケートも実施してPR効果などを振り返ります。

宮本歩来さんは「水やりや草取りが大変だったが、販売は楽しい。声をかけたお客さんが買ってくれてうれし



▲サツマイモと白ネギを販売する児童

かった」と話しました。



水 稲

種もみの準備

2月に入り、まだ寒さは厳しいですが、これから徐々に暖かくなり、春を迎えます。この時期に今年の水稲栽培計画を立てましょう。また、水稲育苗資材や水稲育苗の注文・肥料農薬の準備等の確認をしましょう。

冬の間の作業は土づくりが主ですが、これからは本田管理に向けて育苗作業が始まります。米作りの作業においては、田植え日が作業日程の基準となります。まずは、育苗準備などの流れについて説明します。

◆育苗準備および作業の流れ

●育苗開始の目安

育苗作業を開始する目安は、南部地域で田植え予定日から約35〜40日前頃、北部地域で田植え予定日か

ら約40〜45日前頃となります。

●塩水選

良質な種もみを選別するために塩水につける「塩水選」を行ないます。胚乳が多く含まれた良質なもみは重たいので良く沈み、この沈んだもみを種子として使用します。

順序としてはまず、真水のままでかき混ぜます。真水だけでもある程度、もみは浮き上がります。真水だけでの作業を繰り返したら塩水による作業に移りましょう。いもち病やばか苗病にかかっているもみも浮きやすい傾向にあるので塩水選でしっかり除去しましょう。塩水選終了後は、もみに多くの塩分が付着しています。塩分の付着は発芽障害を招く原因となることからよく水洗いをし、水切りを十分に行なってください。

●種子消毒

ばか苗病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病、イネシンガレセンチュウなどの予防に、テクリードCフロアブル(200倍)、スミチオン乳剤(1000倍)の混合液に24時間浸漬します。種子消毒後は水洗いせず、浸種作業に移りましょう。な

お、種まきまで時間を空けるときは風通しが良く、直射日光が当たらない所で保管してください。

●浸種

浸種は、種もみを一斉に発芽させるために必要な水分を吸収させる作業です。浸種の際、水温が高いほど早く催芽活動が早まります。浸種時間も短くなりますが、急激に吸水させるため、発芽ムラが出やすくなります。水温が低ければ多少の吸水ムラはありますが、時間をかけて吸水させることで発芽ムラを抑えることができます。一般的に水温は10〜15℃が適温で、発芽に必要な積算温度は100℃とされています。(10℃なら10日間、15℃なら7日間)また、水温が7℃以下になると休眠するので注意してください。

種もみが飴色になり、胚が白く透けて見える頃が浸種終了の目安です。直射日光の当たらない場所で浸種し、消毒効果の消失を防ぐため最初の3日間は水の交換は避け、その後は、酸素欠乏防止のため毎日入れ替えましょう。

●催芽

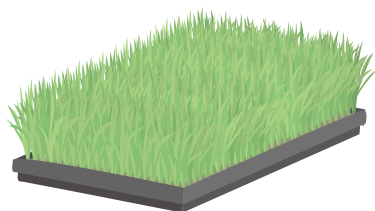
催芽は温度をかけて発芽を促す

作業です。催芽の適温は30℃で20〜24時間かかります。温度が高くなると、催芽ムラや病気が発生しやすくなります。温度管理には注意しましょう。

※育苗で使用する水や薬剤の分量については「水稲栽培ごよみ」を参考にしてください。

●最後に

近年、「水稲の自家育苗」をされている農家は減少傾向にあります。「苗半作」と言われるように、育苗はその後の収穫量や品質に大きく影響する重要な作業です。異常気象に負けない良質な苗を作りましょう。また、育苗管理のいろいろな疑問点等につきましては、最寄りのアグリセンタ―営農指導員にお気軽にご相談ください。



野菜

2月のタマネギ栽培管理について

◆追肥について

例年、4～5月頃に「葉が赤くなる・病気が発生している」や「とう立ち（ねぎ坊主）した」「収穫後に腐りやすい」などの問い合わせが多く寄せられます。

これらの原因は、2～3月の管理の影響が強く、次の点に注意し適切な管理を行いましょう。

●追肥は適量を！

タマネギの追肥（止め肥）は、2月下旬～3月上旬（5日頃）が最適とされています。施用の基準量は1㎡当り約30gとされていますが、実際の施肥量は基肥および年末の追肥量に応じて加減しましょう。追肥が過剰または時期が遅いと、窒素成分が残る収穫後の「腐敗」や「分球」の発生につながり、逆に不足すると草勢が低下し「とう立ち」の原因となるため注意が必要です。



▲「べと病」に感染したタマネギ
初期は葉が湾曲したようになる



▲「分球」
施肥量が多すぎると発生しやすい



▲「とう立ち」
肥料切れ・病害の多発で発生しやすい

●追肥の種類に注意！

追肥の時期が遅れると肥効が後るにずれ込み、腐敗の原因となることがあるため、止め肥には「いね707」などの即効性の化成肥料を適量施すようにしましょう。

◆雑草・病虫害防除の徹底を!!

3月に入ると気温も上昇し、次第にタマネギの生育も旺盛になります。同時に雑草も発生しやすくなります。タマネギは根が浅いため、除草時に根を痛めると減収につながります。除草作業は、比較的根が傷みにくい3月上旬～中旬までに行ないましょう（タマネギごと抜き取らないよう注意しましょう）。

また、気温も上がり、肥料が効き始め降雨が多くなると、「べと病」などの病害も発生しやすくなります。追肥と併せ、「ダコニール1000」などに展着剤を加用して病害の予防に努めることも「べと病」などの病害対策に有効です。また、2月にはすでに「べと病菌」などが付着しています。気温が上がるにつれて一気に発病するので2月中下旬には1回目の防除を行ないましょう。

なお、家庭菜園では、家庭にある「ベークンパウダー」や「重曹」を1000倍に薄めて散布すると、べと病や灰色かび病の予防効果があるので、化学農薬に頼りたくない方にお勧めです。

◆豆知識

ネギ坊主（とう立ち）が発生したら……

ネギ坊主の発生時期は品種によつて異なります。

秋冬用品種……3月頃

春用品種……4月頃

ネギ坊主は、食べることもできます。開花期の柔らかい時期に収穫し、天ぷらや炒め物、みそ汁などで美味しく食べられます。ネギ坊主から10cmほど下の部分を切り取って収穫しましょう。





スマート農業で安全・安心な良食味米の生産目指す 「豊栄町」村若 哲磨さん

豊栄町の村若哲磨さん(71)は、データに基づく管理の徹底で、安全・安心でおいしい米作りを目指しています。2025年産の米「コシヒカリ」は、「ぶちうまいお米コンテストin東広島」で2021年、2023年に続き3回目の最優秀賞を受賞。生産者や農業関係者、次世代と積極的に交流し、データに基づいたスマート農業を広めています。

村若さんは孫ができたことで安全で安心な米を食べさせたいという思いが強くなり、8年前からスマート農業に転換。約70aの水田に観測装置やカメラを自作して水位や水温、気象などをデータ化して情報を集め、食味を重視した生産を始めました。

2023年に専業になってからは賀茂プロジェクトの特別栽培担当として水田1.8haの管理も任されています。そのうち1haは、無農薬・無施肥の自然農法で「朝日米」を栽培しています。先人の知恵を借り、除草対策には除草機を使用。田植え機に取り付けて乗用型除草機に改造し、猛暑での作業を省力化しました。環境負担低減の取り組みとして農水省が推進する「温室効果ガス削減」と「生物多様性保全」



安全・安心、おいしい米作りに挑戦する村若さん(2025年8月に撮影)

それぞれ最高級の星3つを取得しています。2025年は、コシヒカリの再生二期作を試験しました。地球温暖化を逆手に取り、1株から2度収穫する手法で飼料用米などへの活用を呼び掛けています。

2026年産からは管理する全ての水田で特別栽培米の生産に取り組む計画の村若さん。「農業の担い手不足解決のためにも、スマート農業を次世代に継承することで地域の農業・農地を守りたい」と展望します。



Information お知らせ

東広島市
園芸センターより

令和8年度東広島市新規就農者育成研修生を追加募集しています

専業で新規就農する人を育成するため、野菜・花き栽培の技術や経営について研修を行います

【研修期間】 令和8年4月～令和10年3月(2年間)

【場 所】 園芸センターおよび市内農地

【人 数】 若干名

【締 切】 令和8年2月27日(金)

【申 込】 申請用紙(市ホームページからもダウンロード可)を持参または郵送

【対象者】 次の全てに該当する人

- ① 令和8年4月1日現在、18歳以上45歳未満の人
- ② 高等学校を卒業または同等の学力を有する人
- ③ 研修開始までに市内に住所を有することができる人
- ④ 研修の全期間参加でき、通所可能な人
- ⑤ 研修終了後に市内で就農し、認定新規就農者(農業所得250万円以上が目標)を目指す意欲のある人
- ⑥ 申請前に園芸センターでの農作業体験を行なっている人



申込・問い合わせ

東広島市園芸センター
TEL (082)433-4411

